

## 新型コロナウイルスの集団感染を防ごう

奈良県弓道連盟医科学委員 奈良県立医科大学 藤本真一

会員の皆様をご存じのように新型コロナウイルスの集団感染が問題になっています。厚生労働省の情報を基に注意点を述べます。

このウイルスは、罹患しても軽症であったり、治癒する例も多く、重症度としては、致死率が極めて高い感染症ほどではないものの、季節性インフルエンザと比べて高いリスクがあるようです。特に、高齢者・基礎疾患(糖尿病、高血圧など)を有する者では重症化するリスクが高いとされています。現在のところ、インフルエンザのように明確な有効性が確認された抗ウイルス薬がなく、対症療法が中心になっています。

弓道場では、比較的換気は良いのですが、多く的高齢者を含む集団で練習することから、状況によっては、新型コロナウイルスの集団感染の発症が危惧されます。国内では、散発的に小規模に複数の患者が発生している例がみられています。この段階では、通常、濃厚接触者を中心に感染経路を追跡調査することにより感染拡大を防ぎます。今重要なのは、今後の国内での感染の拡大を最小限に抑えるため、小規模な患者の集団(クラスター)が次の集団を生み出すことの防止です。

これまでに国内で感染が明らかになった方のうちの8割の方は、他の人に感染させていません。一方、スポーツジム、屋形船、ビュッフェスタイルの会食、ライブハウス、雀荘、スキーのゲストハウス、密閉された仮設テントなどでは、一人の感染者が複数に感染させた事例が報告

されています。このように、集団感染の共通点は、特に、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」です。換気が悪く、人が密に集まって過ごすような空間に集団で集まることを避けてください。

イベントを開催する方々は、風通しの悪い空間や、人が至近距離で会話する環境は、感染リスクが高いことから、その規模の大小にかかわらず、その開催の必要性について検討するとともに、開催する場合には、風通しの悪い空間をなるべく作らないなど、イベントの実施方法を工夫してください。丁寧な手洗い、咳エチケットを励行しましょう。不要不急の人ごみへの外出は控えましょう。37.5℃以上の発熱、かぜ症状のある方は、絶対に練習に参加してはいけません。若い方々も、自分は罹っても軽症の可能性が高いようだから、人ごみにいても大丈夫などといった独りよがりの行動は、連盟の弓道愛好家、特に高齢者にとって最悪の結果を招く可能性があります。一人一人の厳重な健康管理が今後の感染拡大に大きく影響します。

もし疑わしい症状(37.5℃以上の発熱が4日以上)のある場合には、直接病院、診療所に行くのではなく、まず奈良県庁の帰国者・接触者相談センター(0742-27-1132)に電話で相談しましょう。今が、大事な時期です。今後とも、風評に振り回されず、正しい情報の把握にご留意ください。

### 令和元年度 称号者研修会

2月15日(土)16日(日) 橿原公苑弓道場に於いて称号者研修会が開催されました。講師：範士九段吉本清信先生、教士七段須田三郎先生。受講生33名。

あいにくの天気の中、一日目が始まりました。開会式にて吉本先生のご挨拶の中で「この研修会で今までの自分の経験を皆さんにお伝えしたい。」という言葉がとても印象深く気持ちが引き締まる思いをしました。

#### 第一日目

矢渡：射手 松村由喜子受講生、第一介添 村高洋志受講生、第二介添 平田ゆり子受講生が務めました。

【講評】事前に稽古してきた成果は出て全体的にまとまっていた。介添は射手に付き従うことで呼吸が合う、介添は射手と呼吸を合わせるが歩調は合わせないよう

に心掛けること。

#### 一手行射：【講評】

入場の時、顔と足が揃って正面を見ていない。開き足が不十分なため列が乱れる。矢番え動作(矢を組む時)が中途半端になっている。胴づくりが不十分で弓への割り込みが足りない。肌脱ぎをした後、袂を袴の脇中に入れる時も着物を雑に扱わない。

#### 射技研修：

一人ずつ吉本先生の指導を受ける。吉本先生がどのような指導をされているか全員で見学をしました。先生の指導方法を間近で聞ける貴重な時間となりました。

#### 一つの射礼：

高段の受講生の射礼、その後で射場を前と後ろに分けて研修が行われました。

## 宿舎での研修会：

「錬士抱負、私と弓道」というテーマで、高橋受講生・越智受講生の弓道を始めたきっかけや弓道への色々な思いなどをお話していただきました。

「奈良県の称号者研修会の成り立ちと歴史」というテーマで須田先生・吉本先生よりお話がありました。昭和57年当時のお話から、当時の県連の伝達講習会事情や、昭和61年に実施された「称号者・五段受有者研修会」や翌年に外部より講師を招いた「称号者研修会」のお話など、普段では聞くことのない話を伺えました。受講生からの「指導法について」の質問については、教えることばかりではなく教わる心得が大切であり危険防止を心掛け、世代ごとに弓道への向き合い方、楽しさを伝えられれば良いと思うとお話して頂きました。

## 第二日目

二日目は朝から雨足が強く冷えこむ一日となりました  
**介添研修：**

射場を前と後ろで分け、教士七段の受講生4名が二人一組で指導役にまわり、指導役の指導を講師の先生方がされました。指導役以外の受講生全員が射手・第一介添・第二介添にあたるように割振りされ一連の流れ（矢を放たず通し研修）を研修しました。悪天候のため第二介添の所作も道場内で行われました。

## 弓の受け渡し：

矢渡の弦切れ、競技中の弦切れの時の弓の受け渡しを、受講生数名が代表で研修しました。

## 射技研修：

吉本先生、須田先生の先生方に一手一回ずつ指導を受けました。

最後に仕上げ一手行射を行い、2日間の研修会は終了しました。



射場を前と後に分けて、射礼研修が実施された

**閉会式：【講評】** 須田先生「称号をとった以上は責任がある、指導するという立場は勉強しなければならない。知識も身につけないと教えることが出来ない。気になる点としては視線が下を向くことで自信がないように見え、射品射格に欠けてしまいます」。吉本先生「介添

## 行事の中止や延期の措置

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、全弓連より「3月中に開催を計画している審査会・大会・講習会など、多人数が集まる行事につきましては、原則として中止や延期などの措置」をとるようとの連絡が届き、県内行事も中止となりました。

(事務局)

研修等を組み込んだがスムーズに進まないところもあった、指導者として実践できる事は大事、きちっと決められたことを伝える義務がある。今回、介添研修を取入れ改めて課題が見つかったのではないかと。10年後に国体も控えています。これからの皆さんの課題も見えてきたのではないかと思います。令和元年度はそういった意味では良いスタートが切れたのではないのでしょうか。」西中会長「指導を受けたことを忘れないよう、今出来なくても継続することが大切です。皆さん努力していきましょう」という言葉で研修会は終了しました。

吉本先生、須田先生2日間ありがとうございました。課題を背負って帰った受講生の一人として…焦らず腐らず…気を引き締めて稽古に励みたいと思います。

(指導部 東中千佳)

## 近畿教職員弓道大会を終えて

本年度も2月11日 橿原公苑弓道場にて例年通り開催。参加者数は63名での大会となり、厳しい寒さを感じず、穏やかな一日でした。

競技は各12射の合計数で競い合い、男子団体では奈良A(中西、笹山、奥田)が19中で準優勝。女子団体では奈良A(小西、明崎)が12中で第3位となりました。また、個人参段以下の部では郡山支部の笹山先生が優勝決定競射で残念ながら準優勝となりました。

来年の大会は、50回大会でもあり滋賀県での開催となりました。

(教職員 土谷尚敬)

## 編 | 集 | 後 | 記

新型コロナウイルス感染拡大に対応し、県連医科学委員の藤本先生に、寄稿をお願いしました。一人一人が集団感染防止に向け行動することが必要と思います。

2016年から編集を担当してきましたが、3月末をもって辞することになりました。4年間、編集の過程で色々な先生、選手の方々と接し、多くのことを学ばせていただきました。また、会長には私の編集方針を快く受け入れていただき、のびのびと仕事に取り組みました。ご協力くださった皆さまに感謝します。新しい編集担当のご活躍に期待します。

編集担当 野尻賢司